

委員意見の概要及びその意見に対する市の考え方

○令和7年度第2回四街道市多文化共生推進プラン策定懇談会

①【意見】

細谷委員：素案のP12の5行目について、「アフガニスタン人」と記載していますが、今後状況が変わる可能性があるため、「外国人市民」のほうが良いと思います。また、「アフガニスタン人」と記載することで、ヘイトにつながる恐れがあります。実際は、外国人でも、税金を納めて生活しています。

【変更前】

千葉市で活動している「多文化フリースクールちば」(※1)は、高校へ進学できない生徒を支援しており、本市のアフガニスタン人などが多く通っています。

【変更後】

千葉市で活動している「多文化フリースクールちば」(※1)は、高校へ進学できない生徒を支援しており、本市の外国人市民が多く通っています。

②【意見】

細谷委員：P16について、外国籍市民向けアンケート調査は、「自分の住んでいるところや会社で不快な思いをしたことがあるか」と事実に基づく質問ですが、日本人市民向けアンケート調査においては、「地域に外国人が増えることでどのような影響があるか」と想像上の質問となっています。この2つは同列にしない方が良いでしょう。想像上の質問があたかも事実のように受けられてしまいます。そうして間違えた解釈によりヘイトにつながる恐れがあると思います。

【変更前】

日本人市民向けアンケート調査においては、「地域に外国人が増えることでどのような影響があるか」の問いに対して、「文化や習慣の違いからトラブルが増える」と回答した方が58%、次に「国際理解・異文化体験の機会が増える」と回答した方が43.3%いました。このように外国人市民に対する感情が交錯する中、国籍等に関わらず住民同士が地域の一員として支え合う地域づくりのために、外国人市民と日本人市民が相互に理解できるよう多文化共生意識の啓発・醸成に努めるとともに、外国人市民に対する不当な差別的言動の防止に取り組みます。

【変更後】

国籍、生活習慣、文化が異なる住民同士が地域社会の一員として支え合うために、国籍が異なる住民同士のコミュニケーションを増やし、外国人市民と日本人市民が相互に理解できるよう多文化共生意識の啓発・醸成に努めるとともに、外国人市民に対する不当な差別的言動の防止に取り組みます。

○令和7年度第3回四街道市多文化共生推進プラン策定懇談会

③【意見】

細谷委員：P 19の小島副会長のメッセージにおいて、外国免許の切り替えの負担増に関して、詳細が記載されているが、詳細は記載せず相談の例の1つとして記載するほうが良いと思います。

【変更前】

教室での日本語支援が重なって行くにつれ打ち解けてきて、今困っている事が話に出ってきます。仕事や在留資格の話、女性の場合は女性医師がいる産院は？等色々な相談を受けます。この度自動車の外国免許の切り替えの際の筆記試験問題が10問から50問に大幅増となり、外国籍者にとって大ごとになりました。免許取得の相談はより多くなりそうです。

【変更後】

教室での日本語支援が重なって行くにつれ打ち解けてきて、今困っている事が話に出ってきます。永住権を申請したい、子供が夏休みの間日本に呼びたい、仕事をしたい、ムスリム女性の場合は女性医師が常勤している産院に行きたい、外国免許の切り替え等々様々な相談を受けることがあり、出来るだけのことをしてあげます。